

日本基督教団 東中国教区ニュース

NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒710-0008
倉敷市鶴形一五十五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-422-1780

教区総会説教

「互いに愛し合いなさい」

久世教会 牧師 宮本裕子

ヨハネによる福音書 十三章三四節

*新しい掟

「互いに愛し合いなさい」イエス様はこれを「新しい掟」として、与えておられます。しかしながら、この言葉を、ぱっと聞いただけでは、真新しい言葉のように聞こえないかもしれません。普通に考えて、私たちは、「お手本は、私があなたを愛したように、ですよ。」と、胸を張って言えるでしょうか。私たちがなかなか言えない言葉だと、思ってしまうわけは、「わたしは、あなたを愛した!」と、自信を持って言えるほどに、自分の愛に確信をもっていないからなのです。

*人は裏切る者である

今日の聖書箇所は、イスカリオテのユダが、イエス様を裏切り、出ていく場面のあとに書かれています。そしてまた、後ろには、ペトロの裏切りの予告がなされています。イエス様の「新しい掟」は、まさにユダとペトロの二人の弟子の裏切りに関する記事にサンドイッチされる形で語られています。つまりここで、そもそも人間は、愛し合うどころか、自分を愛してくれた人でさえ、裏切ることすらできる、そのような存在なのだ、とヨハネ福音書は語っているのです。

*キリストの愛を知る

人生を振り返れば、「申し訳ないことをした。」という思いが、今までに一回もなかったという人が一人でもいるでしょうか。私たちはそのような苦い思いを一つひとつ積み重ねながら年を重ねてきたのではないのでしょうか。ペトロもまた、その苦しみを体験しなければなりませんでした。

人は、様々な苦い痛みを経験するごとに、人を救し、互いに愛し合うことができ

目次

教区総会説教	1
教区総会 議長報告	2
教区総会 書記報告	3
着任・退任・転任のあいさつ	4
なゼルシファーなのか〜西光万吉の思想にふれて	6
教会紹介	7
こんにちはのお部屋・四コマ漫画・編集後記	8

るようにされていくのだと思います。「互いに愛し合う」ことは新しい掟です。イエス様の「新しい掟」は恵みの掟です。なぜなら、自分がすでに赦されていることを知らされている者は、愛さずにはいられない者へと変えられているからです。主イエス・キリストが、十字架において、私たちに赦してくださいだったので、「互いに愛し合う」という、とうてい守ることができないと思えた掟が、守らずにはいられない、最上の恵みとなりました。

*愛し合うために生まれた

私たちは傷つけ合い、憎むために生まれてきたものではありません。互いに愛し合うために生まれてきました。その一番の証拠は、私たちは愛し合えない限り幸せにはなれないからです。



「教区総会」議長報告

東中国教区 議長 服部 修

二〇二二年五月二三日(月)に、東中国教区としては三年ぶりの総会を、オンラインにおいて開催した。開催にあたっては、通信環境の違いや、オンライン会議の習熟度の違いもあることから、接続テストを二回行い、また総会前週に議案の説明会を開催した。初の試みであり不安はあったが、当日は、オンライン担当者の丁寧な働きのおかげによって無事に開催し、終えることができた。改めて感謝を述べたい。また不慣れな中参加してくださった教区総会議員の皆さまにも感謝を表したい。

集まっただけの会議ではないため、礼拝で共に聖餐に与えることはかなわなかったが、御言葉に聞き、また逝去者のための祈祷のときも持てたのは、オンライン形式であっても総会を開催出来た恵みであったと思われる。

あらかじめ議案説明会を行っていた

こともあり、当日の議論は濃いものとなった。とりわけ議案第七号「東中国教区宣教強化のための教会強化特別資金運用規程改定に関する件」は数年来に渡る重要な議案であり、協議の中で動議も提出されるなど、一堂に会しているときと変わらないほどの討議となった。採決に関しては、重要な議案でもあるため丁寧な点呼と採決を行い、最終的には書面によって賛否を問うこととなり、後日の選挙管理委員会の集計により原案が承認された。この改定によって、教区内教会の宣教の活動が活発になり、その活動を教区としてできる限りサポートできればと願っている。

また議案第十一号「将来的東中国教区宣教に関する件」についても、多くの議論が交わされ、この議案も書面によって賛否を問うこととなり、原案が承認された。

教団総会議員選挙については、昨年度の総会における郵送による選挙の経験を活かし、郵送にて選挙を行うことが承認され、議員の確定に至った。

今総会の議案でもう一つ重要な議案は、議案第十二号「岡山キリスト災害支援室との宣教協約に関する件」である。これは、西日本豪雨復興において、岡山キリスト災害支援室(岡キ災)と東中国教区、そして日本基督教団とYMCAせとうちが協力して「まびくら」の活動が実現したことを踏まえ、今後、災害が発生した際にも共に連携しながら活動できることを目的として提案された議案である。本議案が総会において承認されたことを受け、オンラインにて参加して下さっていた岡キ災室長の草井琢弘先生から挨拶をいただいた。

画面越しに、久しぶりに顔を合わせることのできた方々を拝見しながら、少しでも早く一堂に会しての総会ができるようにと願わずにはいられなかった。

「教区総会書記報告」

東中国教区 書記 木谷 実

第七十一回東中国教区総会は初めてとなるオンラインでの開催でした。コロナ禍で行われた過去二回の教区総会は書面にて開催されましたが、オンライン総会はそのから一步、新しく踏み出すための試みです。総会のオンライン開催が決定してから、どのようにすれば開催できるのかを、総会準備委員会、常置委員会、拡大三役会にて協議してきました。

最初に課題となったのは「どうすれば全ての議員がオンラインで出席できるのか」という点です。全ての教会や家庭にオンライン環境が整っているわけではありませんので、そこを調査していくことから始めました。これには地区の繋がりの中で対応していただき、二つの地区会場、多くの議員が

教会から参加するという体制を作ることができました。そして二回の接続テスト、議案の事前説明会も実施しました。参加者の皆さんには貴重な時間を何度も割いていただくことになりましたが、この接続テストを通して開催する側の課題がみえてきました。また、今回は特別にオンライン担当者を経会に向けて設け、Zoom操作のサポートや議員点呼の場面で協力してもらいました。議事運営委員会と共に今回の総会で大きな働きをしていただきました。いくつもの課題がありました。一つひとつクリアしていくことによつて、無事にオンライン総会を開催することが適いました。

今回のオンライン開催を通して私たちが一同に集えないながらも繋がり、協議していくことが可能であることが分かりました。これは総会に限らずこれからの東中国教区の活動を考えるべく新しい可能性になったと思います。これまでは長距離の移動が可能な方し

か総会議員になれなかったり、教区の集会に参加することはできませんでした。しかしオンライン開催や、オンラインと対面を併用した開催となれば、移動が難しい方や時間が取れない方も参加することが可能になります。これまでよりも多様性をもった形で、集会を開くことができるようになりました。

これが実現できたのは、参加者や奉仕者の方々がオンライン開催に向けて協力してくださったからです。それがないければオンライン総会は失敗に終わっていました。また、何よりも神様がオンラインであつても総会を導き、場所は離れていても私たちを繋いでくれました。オンライン総会にはまだまだ課題もありますが、教区に与えられた経験と財産を生かし活動してまいります。

「着任・退任・転任のめぐり」

玉野教会 牧師 今井靖清



二〇二二年
四月から玉野
教会に遣わさ
れた今井靖清
です。

『わたしの羊を世話しなさい』（ヨハネ二二章十六節）これが私の召命の御言葉です。この御言葉によって三十年間の北海道での酪農をやめて「牛飼いから羊飼い」となり、現在に至っています。これまで十四年間に二つの教会に仕えてきました。召命の御言葉に応えてきたかどうかを自問するに、欠けの多い者ゆえに内心忸怩たるものがありますが、これから教会の頭なるキリストの御旨に従って教会の皆さんと共に歩みたいと願っています。よろしくお願いいたします。

「めぐり」

蕃山町教会 伝道師 加藤 隆



このたび蕃
山町教会に伝
道師として着
任いたしました
た加藤隆（か
とうたかし）と申します。

三月に東京神学大学を卒業して、四月に岡山に参りました。卒業して間もない、右も左もわからない状態の自分をおたたく迎え入れていただいて本当に感謝しています。初めての土地で、初めてのことばかり、文字通り右往左往していますが、また同時に何もかもが新鮮で、神さまが与えてくださる恵みを感じています。
わからないことも多く、たくさん迷惑をかけることもあると思いますが、精いっぱいお仕えしていきたくと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「お見知り置きを」

岡山教会 伝道師 佐々木玲哉



東中国教区
につながる皆
様、関西で育
ちました佐々
木玲哉です。

私は、大学卒業後に就職活動もしましたけれども、神様に導かれて伝道の道へと進むことになりました。大学の学部を卒業して間もないものですから、世間について知らないことも多々あります。このようなことではいけないと知りながらも、生活力、あるいは人間力というの一日ではどうにもならないことを思い知らされているところです。このような弱いものですけれども、その弱さを認めつつ教会のために、神様のために仕えていきますので、よろしくお願いいたします。

岡山教会 牧師 涌井 徹とほる



私、生まれも育ちも神戸です。還暦一歩手前の十数年前、何の因

果か、牧者の世界に迷い入ったカケダシの身もちまして姓名の儀、一々声高に発します仁義失礼さんです。須磨海岸で産湯をつかり、姓は涌井（わくい）、名は徹（とおる）と発します。不思議な縁持ちまして、一年任期の主任として、ネオン高鳴る中山下の岡山教会会堂三階に仮の住居まかりあります。とかく東中国教区のおあにいさん、おあねえさんに御厄介かけがちとは思いますが、以後見苦しき面体お見知りおかれまして、恐惶万端引き立って、よろしくお頼み申します。

「退任の挨拶」



小野澤照夫

東日本大震災の起きた年の四月に米子錦町教会に赴任し、東中国

教区の仲間に加えていただきました。瞬く間の十一年間でした。日本聖書神学校の卒業生は私一人でしたが、現在は四名になりました。西部地区の先生方は出身神学校が皆違っていました。それぞれが神学的立場に立って意見を述べ、感情的にぶつかることなく、幅広い議論を交わすことができました。素晴らしい教師会でした。何よりも感謝なことは、神さまが働いてくださって毎年のように洗礼者が与えられたことです。

「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している」エレミヤ三二章三節

「転任の挨拶」



清水国際高校 宗教主事 高根祐子

岡山から引越して最初の十日ほどの間に、早くも何回も雨が降り、

「ここは晴れの国ではないんだ」ということを実感しました。二年という短い間、しかもずっとコロナの心配がつきまとい、とって岡山の奉仕でしたが、とても貴重な時を過ごさせていただいたことに心から感謝しております。現在、学校というまったく勝手の違う場所に移り、わからないことばかりで日々あわただしく過ごしています。まささらな高校生たち、礼拝と授業を通してキリストをどう伝えるのか、試行錯誤を続けていきたいと思います。

「なぜルシファーなのか」 西光万吉の思想にふれて

琴浦教会 川上幹太

今年の三月七日、岡山県同宗連第三十九回総会で、水平社博物館館長駒井忠之さんより、水平社宣言についての講演をいただきました。「全国水平社創立宣言」、通称水平社宣言の起草者である西光万吉は、様々な宗教からその思想を形づくっており、聖書からも影響を受けています。その中で、彼が特に気に入って、他の文章で引用しているのは「ルシファー」という言葉です。悪魔を意味するこの言葉を彼はなぜ選んだのでしょうか。ルシファーの本来の意味は、「明けの明星」＝金星です。イザヤ書十四章十二節で登場する「明けの明星」とは本来、栄華をほしのままにし天に届こうとしたバビロンを指していました。「天から落ちてしまった」という言葉が墮天使をイメージさせ、

次第に墮天使の頭サタンと同一視されるようになり、その別名として用いられるようになりました。そしてこのルシファーは、エデンの園の蛇とも同一視され、人間に「善悪の知識の実」を食べさせることで、人間に感情や理性、知性をもたらした存在とも見なされるようになります。

このようにルシファーが人間をエンパワーする（自分の意志で決定していくような生きる力を与える）存在と見なされる一方で、宣言における「神」は良いイメージでは書かれていません。「人間が神にかろうとする時代におうたのだ」という言葉の、ここでいう神とは、身分制度を人に与え、維持している存在であり、人々の心に根強く残る差別の根源的なものを指しています。おそらく西光氏の印象では、創世記で神が最初につくられた世界の人間は、何も知らず神の言いなりで生きる、自立していない未熟な存在、奴隷のようなものであったのです。だからこそ、人間の尊厳に目覚めさせ、自立した生

き方をもたらす蛇＝ルシファーこそ、本当の人間らしさを与えると考えたのです。

西光氏のキリスト教に対するイメージは、正しい知識によるものではないかもしれませんが、しかしそういうイメージを与えてしまった責任は、やはり教会自身にあると思うのです。日本においてようやく迫害の危険から解放された教会は、まず波風立てないように社会（の多数派）から認められることに集中したと考えられるからです。しかし、西光氏が、聖書に救いを求め、人権運動の根拠を求めたことは疑いようのないことです。西光氏の求めに応えるメッセージを心がけていきたいと思えます。



教会紹介

●高倉栄光教会●

牧師 中島 献二

わたしたちの教会は「津山福音教会」と「高倉教会」が二〇一五年四月に合併し、二〇一六年に「高倉栄光教会」という名称が確定した創立七年の若い教会です。

合併当時、津山福音教会は創立三十七年、高倉教会は創立六十二年。合計百年という不思議なタイミングでした。

「旧津山福音教会」は創立当初から借家を転々としながら礼拝諸集會を守っていました。「旧高倉教会」は創立当初から保育園を併設し、会堂は園舎の一部でした。

この度二〇二一年一月二四日に起工式、同年十一月二八日（アドヴェント第一主日）に予定通り新会堂の献堂礼拝を執行いたしました。（信徒の友二〇二二年六月号の「献堂しました」に掲載



載されています。）高倉教会としては、創立七十年目に、初めて専用の会堂を建てることが出来ました。津山福音教会としては、初めて宗教法人として登記された会堂で礼拝を行うことが出来るようになりました。特に高倉教会は、四十四年前に、宗教法人立の保育園を社会福祉法人高倉ひかり保育園に変更し、会堂兼園舎を取り壊し、教会は新園舎のホールを集會の時間だけ間借りするという状態が四十四年間続いておりました。

新会堂が建って、すぐのクリスマスには受洗者が与えられ、保育園の保護者の出席も始まり、保育園の職員も礼拝準備にかり出されることがなくなりました。逆に、信徒は会堂清掃や礼拝の受付などの奉仕を大変喜んでくださっています。クリスマスの賛美礼拝に來られた客員の方の礼拝出席も続いており、礼拝が週を追う毎に豊かになって感謝しております。また、コロナ禍ですので保育園内で行えない理事会等も会堂で行うことが可能になっており、神様がなさることの不思議を味わい、感謝する日々です。津山ハンドベルサークルが練習場を失ったタイミングで新会堂が献堂され、同サークルからハンドベルが寄贈され、保管場所兼練習会場として用いられています。新会堂は、まだまだ改良の余地がありますが、ツーバイフォーの木造ですので、工夫の余地があること、普通の木造よ

り耐震強度があることが強みです。

コロナ禍で、保育園ホールでの礼拝の頃から、YouTube配信を始めておりますが、再生回数と、礼拝出席者がほぼ同じですので、倍の方々も礼拝に参加されていることも感謝です。小中学生への伝道はこれからの課題です。

礼拝でも、家庭でも、祈りを大切にしています。聖霊の働きがなければ起こり得ないことが続いています。ただただ、教区地区内外の諸教会の皆さんのお祈りに感謝する日々です。



高倉栄光の新会堂

「こんにちは」のお部屋

「ちよならラーメン」

和気教会・三石教会

延藤好英



二〇二二年三月八日(火)は、二時から、岡山県東部地区教会協議会でした。それは、四人の教師の送別の時でもありました。岡山教会の大塚忍先生、伊勢希先生、

玉野教会の山本博之先生、蕃山町教会の高根祐子先生の四人です。コロナのためなかなか対面での協議会ができない状況でしたが、この時ばかりは、対面でお会いし、送別の時をもちたいという思いがありました。そういうわけで、対面とZoomのハイブリッド方式での協議会としました。会の中で送別の時をもち、お一人お一人に感謝とねぎらいの言葉をお伝えすると共に花束をお渡しすることができました。

もう一つ、かねてから話題にはなっていたけれども実際にはどなたにも提供することができていなかったわたしのラーメンを召し上がっていただくことにしました。これは自由参加で、十二時から一時半までの間に和気教会に来ていただき、食べていただくことにしました。みなさん

んに喜んでいただけただけでよかったようにわたしとしても感謝なことでした。



編集後記

教区ニュース誌一八六号をお送りします。ハイライトは何と言っても教区総会がオンラインであっても開催することができたということです。過去二年は書面票決でしたので、技術力を生かしての大進歩です。報告にもありますようにオンライン総会に向けて相当の努力を重ねられたことに敬意を表します。特に教会関係者は高齢者が多く、その努力は並みたいていではなかったのではないかと推測します。結構距離感のある教区の行事にオンラインの良さをこれからは大いに生かしたいものです。(s.m)



★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
電話番号 ○九〇―一三三三〇―八七三〇